

# きょうの 発言

私が留学していたドイツは「パンの国」。おいしいパンがたくさんありました。でも、やっぱりご飯が食べたくまりました。そこでイタリアやトルコ産のお米を見つけてきては、鍋で炊いていました。味や安全性などはさておき、ご飯が食べられるだけで大満足でした。

日本は「ご飯の国」。お米の生産から利用の技術を含めた、米にまつわる素晴らしい文化が発達しています。ヨーロッパの二―三倍も降る雨を資源に、世界一

おいしいお米が作られます。日本の風土に一番あった作物、それがお米です。今、南阿蘇の農家グループで「おあしす米」という無農薬コシヒカリを作っています。私たちの田んぼでは、アイガモやコイたちが草や虫を食べてくれます。牛フンや油カスなどの有機物で土を作り、種もみから

## 「ご飯の国、ニッポン

倉庫保管中まで消毒は一切していません。

できたお米は生産者が自ら袋に詰め、手紙などを添えて全国のお家庭にお届けしています。すると、お客さまから直接反応が返ってきます。「おいしかった」「ありがとう」「がんばって」。

自分たちが作ったお米が評価されると喜びとやりがいを感じます。

バブル崩壊後、若い世代を中心に価値観は大きく変わりました。フリーターや転職など、働き方はその人

の生き方に合わせて多様化しています。農業にもやりがいがあれば、魅力を感じる若者が増えるのではないのでしょうか。

実際、私が農業をやりたいと思ったのも、叔父が無農薬や産直にいっききと取り組む姿勢に共感したからです。これからの農業は「長男だからやらされる」のではなく、「やりたからやる」。そんな農家が増えてくれば、農村はさらに魅力的になると思います。